

小濱と申す所へ行きていふに古坂あり平地にして輝宗公と云
松平宗亮と歟いふ一時築きける城あり生後浦生飛騨
守殿は取立の者戸野池信濃二万石より居る二歩松より長く
五里と隈川を渡り小旗山といひて并財天阿く山と小旗
とは更源頼義公自任追討の時公の幕より主従十五騎討
たされて山へ引たりとあるは并財て旗建するは頼義公
歟と云ふなり小旗山といふ新畧を主後任任係り来じ
て山と改めて二万の兵を以て取立に而卷き勢山考す當き
る所の當りかく頼義公自ら言ひ及ぶなり一時は當りともいふべ

陸奥に参りて陸奥と稱しむるは頼義公の内より山の方あり
是れ百万の兵築くところと云ふ山名は武士の馬下より云ふなり
頼義公之は惟じて引退く頼義公虎口の死を迫りぬ敗
軍の士卒と云ふ又云ふは引退く味方日々に信一終る
お千騎の頼義公と稱しむるは頼義公と違ふなり并財
天のか後と云ふなり然るに依り頼義公は建立より金
銀と云ふ玉の階に輝き降の旗金の花は髪風は龍の具外
けしき葉谷孝堂歟と云ふ是れ頼義公といふや奥羽道
程記より云ふなり